クラス番号	645	担当教員名	片山　善博
テーマ	共生社会の人間学		
著書・論文 研究課題等	著書：共著『西洋哲学の軌跡』晃洋書房（2012）、共著『21 世紀における語ることの倫理』ひつじ書房（2011）、共訳『越境する環境倫理学』現代書館（2010）、共著『フィヒテ：『全知識学』を政治的なもの』創風社（2010）、共著『共生と共同、連帯の未来』青木書店（2009）、共著『<人間>の系譜学：近代的人間観の現在と未来』東海大学出版会（2008）、共著『ヘーゲル』社会評論社（2008）、共著『改訂版　共生のスペクトル』DTP 出版（2008）、共著『環境思想と環境問題』創風社（2008）、共著『西洋思想の 16 人』梓出版社（2008）、共著『境界線の哲学』DTP 出版（2008）、単著『差異と承認：共生理念の構築を目指して』創風社（2007） 研究テーマ：福祉の思想、環境倫理、ヘーゲル哲学		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：環境、生命、労働

目的、内容、方法等：

☆目的、内容、方法等：

キーワードに挙げた「環境」「生命」「労働」を手がかりに、共生社会とはどのようなものか、またそれを担っていく人間とはどのような存在なのか、探求していきます。こうした共生社会の人間学を、哲学・倫理学の視点から構想することを目指していきます。まず、「環境」については、自然環境や社会環境に対する私たちの倫理的態度の在り方について考えていきます。つぎに「生命」については、生命倫理や死生学の視点から、技術と結びついた人間の生と死の問題について考えていきます。最後の「労働」については、人間の、生きがい、自己形成、それを支えるさまざまな社会システムについて考えていきます。

私の研究領域は、著書欄にあるように、「共生」あるいは「承認」が現代社会のなかでどのように問われているのかを探究しその解決策を探るということにあります。当然、福祉とは何か、障害とは何か、老いとは何か、そうしたことを根本から考えていくことにもなります。ゼミでは、できるだけ、深く、そして広く物事を考えられるよう、工夫していきたいと考えています。

☆授業計画：

ゼミでは、キーワードにかかわる文献を皆で読んでいきます。（たとえば、「環境」であれば、「動物の権利」「生態中心主義」「エコロジー運動」などに関する文献であり、「生命」であれば、「臓器移植」「安楽死」「死生論」「ケアの倫理」などに関する文献であり、「労働」であれば、「労働観」「ワークフェア」「生きがい」などに関する文献です）

毎回のゼミでは、一人ひとりに口頭発表とレポート作成をしてもらいます。口頭発表については自分で選んだテーマで、20 分ほど話してもらい、それについて参加者全員で議論をします。そして議論したことについて、発表者には、のちに簡単な文章（400 字程度）にしてもらいます。そこでは、きちんとした文章を書くことを目指します。「きちんとした」ということは、筋道が立っているということと同時に、相手に訴える力をもっているということをも意味しています。そのためには、まず「なぜ」とか「どうして」ということをベースに、自分なりの問題を発見し、だれに向かって書くのかを十分に意識することです。さらにはこれまでの文献資料をしっかり読むこと、場合によっては綿密なフィールドワークなども必要となります。そして筋道を立ててまとめる力も求められます。4 年次の卒論作成に向けて、きちんとした文章を作成できるようにしていきます。

4 年次では、卒論作成を中心に、個別指導も含めて、進めていきますが、そのときどきの多様なテーマについて出来るだけじっくり議論ができるようにしていくつもりです。

担当教員からのメッセージ

読書や発表、議論を通して、さまざまな発見ができるような、楽しいゼミにしていきたいと思っています。